目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12 13 14 18 23 25 26 27	ケアプランに基づいたケアをチームとして行い、その結果を記録し情報を共有することで入居者の心身の状態変化を把握する事が出来ている。 また、各入居者様の担当が定期的にモニタリングすることで、ケアプランの見直しを行っている。今後も担当職員が入居者の想いに寄り添ったケアを主体的に提案しよりよいチームケアが実践できるように、さらには介護技術の向上に向けた取り組みが必要である。 さらに、ケアカルテの使用についてはある程度の向上がみられたが、課題もありシステムを上手く活用できていない。	1)入居者一人一人の想いに寄り添い、必要な支援を主体的に考え発信することができ、職員個々の専門性を高め、お互いに認め支えあうチームケアを目指す。 2)ICT化の活用により入居者の心身の状態変化を見える化し情報を共有化することでよりよいチームケアの向上を目指す。	①担当職員は入居者の視点でアセスメント・モニタリングを実施し、個々人に必要な支援をユニット会議等で情報を発信することでより良いケアを目指す。 ②両ユニットの職員で連携協力してレクリエーション、嚥下体操等を継続実施する。また個々の状態に合わせた自立支援の為の生活リハビリを考え実践する。 ③認知症や看取りについて定期的に学びの場を設け、重度化に対応できる介護技術についても実技を取り入れた勉強会を取り入れていく。 ④ケアカルテの活用で記録業務の効率化による負担軽減を図り、専門的な介護に携わる為の時間の捻出を図る。	12ヶ月
2	3 4 65	コロナ禍の影響で地域貢献活動が実施できなかった時期があるので、以前の活動を経験した職員も少なくなり、再開するにはゼロからの出発となる。 5類に移行したとはいえ感染対策は必要であるし職員の地域活動に対する理解を深める事や経験する機会がなかった。	3)地域密着型サービス事業所として当事業所が地域に求められている役割について理解し、その特性を生かした地域貢献活動に職員が積極的に関われる機会をつくる。	⑤職員に地域密着型サービス事業所の役割と、地域貢献活動の内容について勉強会を実施するとともに、運営推進会議に介護職員も参加できる機会をつくる。 ⑥聖母の丘全体として、安心して参加できるように感染対策を講じた認知症カフェ(ルルドカフェ)の再開に取り組んでいく。	12ヶ月
3	2 4 29 35	年2回、昼間と夜間を想定して聖母の丘本館との連携して火災訓練を実施する事ができた。運営推進会議委員の方々にも見学して頂き有事の際にはご協力を願った。 前年度の訓練時にマニュアルの変更を行っているので再度周知が必要であり、全職員に浸透するまで訓練を行わなければならない。	4)全ての職員が感染症や非常災害時の対応が実践できるように、必要な研修や訓練を地域の方々とも連携協力しながら実施し、マニュアルの見直しを行う。	⑦聖母の丘本館職員(特養・養護)と業務継続計画について連携協力して実施する。 ⑧全ての非常災害訓練において、入居者及び地域の方々も参加できるように働きかけ実践するとともに、意見交換等によって振り返りを行い、必要に応じマニュアルを適宜見直しする。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。